Report for Creating Peace and Happiness
Musashino University Creative Happiness Incubation
武蔵野大学しあわせ研究所通信 Vol.172　2025 年 12 月 4 日発行

インクルーシブな社会を実現するための対話の場の創出に関する実践的研究―インクルーシブ・キャンパス/コミュニティ・プロジェクト（ICP）（2）

神吉宇一、明石修、上野まき子
オーリ・リチャ、木下大生
清水潤子、友田奈津美、渡辺裕一

本研究では、どのような状況にある人も自分らしく生きていくことができるというインクルーシブ社会を実現するために、その基盤となる対話の場を創出することに取り組んだ。「インクルーシブ・ダイアローグ」という場を設定し、参加者同士が対話を通してインクルージョンについて考えることを目指した。

インクルーシブ・ダイアローグは、2024 年 7 月に 2 回、10 月に 1 回、12 月に 1 回の計 4 回実施した。7 月の 1・2 回目は武蔵野図書館改築に伴い建設予定のオールジェンダートイレについて、多くの学生たちの意見を聞く場を設けた。全体としては、賛成だけれども不安があるという声が多かった。また個別のコメントとしては、「多目的トイレを増設すればよい」という意見が目立って多かった。さらに「意義の説明責任を果たすべき」「わざわざジェンダーレストイレをつくる意味がわからない」というコメントもあり、オールジェンダートイレを大学が設置する意味・価値について十分に理解が得られていない状況が明らかになった。

12 月に実施した 4 回目は、特に 1・2 回目の意見聴取の結果を参照しながら、少人数で、インクルーシブなキャンパス・コミュニティをつくっていくために、どのような取り組みが求められるかをディスカッションした。その結果、「今回のオールジェンダートイレに限らず、大学は学生たちの意見を運営に取り入れているのか」「アンケートに回答するがよくなっている実感がない」などの意見があった。一方で、オールジェンダートイレの価値については、自分ごととして考える視点が欠けている面があるのではないかという意見もあり、キャンパス・コミュニティをよくしていくのは自分たち自身であるという意識が持てるような取り組みはどんなものなのか、継続的な取り組みが必要だとなった。

インクルーシブ・ダイアローグの取り組みは今後も継続して行く。次年度以降は今年度明らかになった課題を踏まえ、「なぜ」「なんのために」インクルージョンが必要なのかという価値についてどのように共有していくのか、また自分ごととしてコミュニティに関わるとはどういうことかについて対話を通して追究する場をつくっていきたいと考えている。

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World
Musashino University
Musashino University Creating Happiness Incubation
武蔵野大学しあわせ研究所　電話：03-5530-7730
東京都江東区有明３－３－３　メール：mhi@musashino-u.ac.jp